

農作業安全の取り組みについて

富山県農業機械士会・富山県農林水産公社
農業機械利用技術研修会 資料

令和4年11月17日

一般社団法人 日本農業機械化協会会長 雨宮宏司

一般社団法人 日本農業機械化協会のご案内



農作業安全
キャラクター
葉月このは

○会員：

- ・主要農機メーカー
- ・全農機商連ほか農機流通関係
- ・全農、全中ほか農業者団体 など

○設立：昭和32年

○主要業務

- ・日本農業への機械化、そのための優良農機の普及
- ・農業機械・農作業の安全対策
- ・機械費の低減
- ・農業機械士の全国協議会の事務局 など

一般社団法人 日本農業機械化協会のご案内



農作業安全
キャラクター
葉月このは

○最近の主要な業務

◆農林水産省の助成・委託などによる農作業安全への取り組み



高齢者使用農機の安全点検

◆ロボット農機の安全使用基準策定



◆中古農業機械の査定士制度の運用



◆各種資料の頒布



安全資料の作成



安全ポスター



各種テキスト

◆イベント開催



農業機械化フォーラム

農業のイメージ

一般に「農業」と聞いて思い浮かべるイメージは・・・

労働・収入面は厳しいかも知れないけど
牧歌的、生命を育む、自然に親しむ、地方の良さ・・・
など

まず「危険！」と思う人はあまりいない、ところが

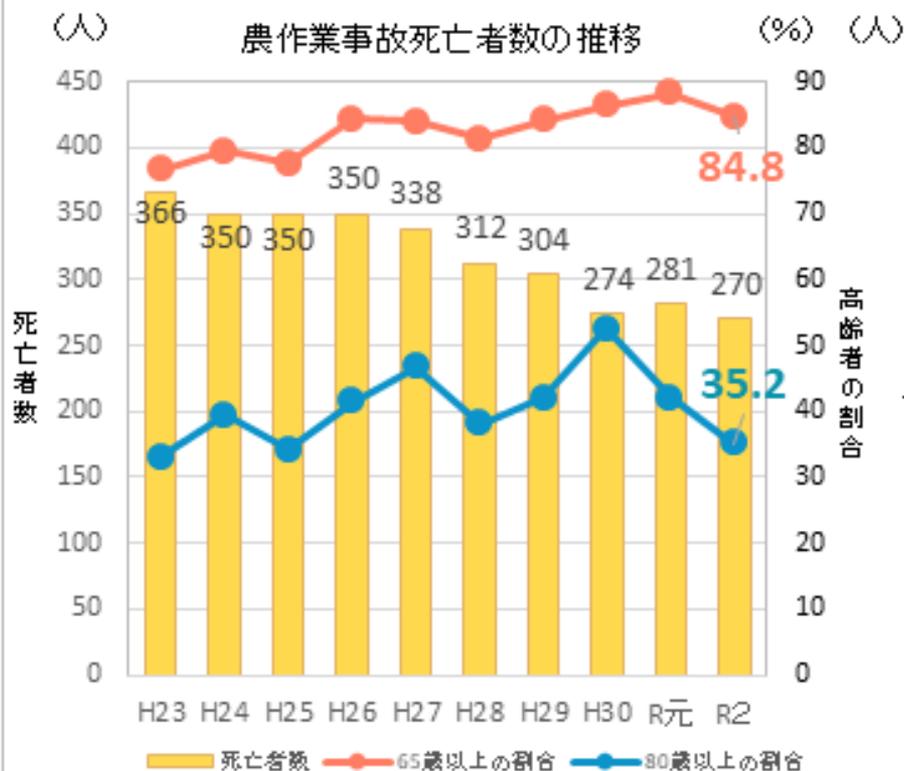
実際には農業は死亡率の高い、大変危険な産業なのです

農作業事故は、あなたの身近に迫っている！

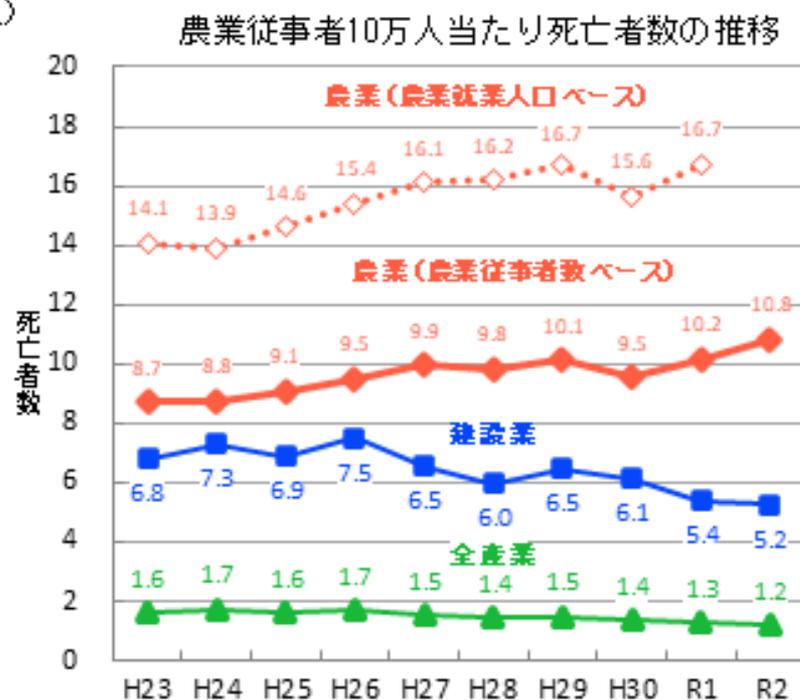
○ 農業は意外に危険な産業です

農業従事者10万人当たりの死亡者数は、建設業の約2倍程度となっており、全国で年間約300名近くの方が亡くなっています。

(注) 農業の就業人口10万人当たり死亡者数の算出に使用していた農業就業人口の調査が令和元年で終了したため、令和2年から新たに農業従事者数を使用し算出。



農作業死亡事故調査（農水省）



死亡者数 農業：農作業死亡事故調査（農水省）

他産業：死亡災害報告（厚労省）

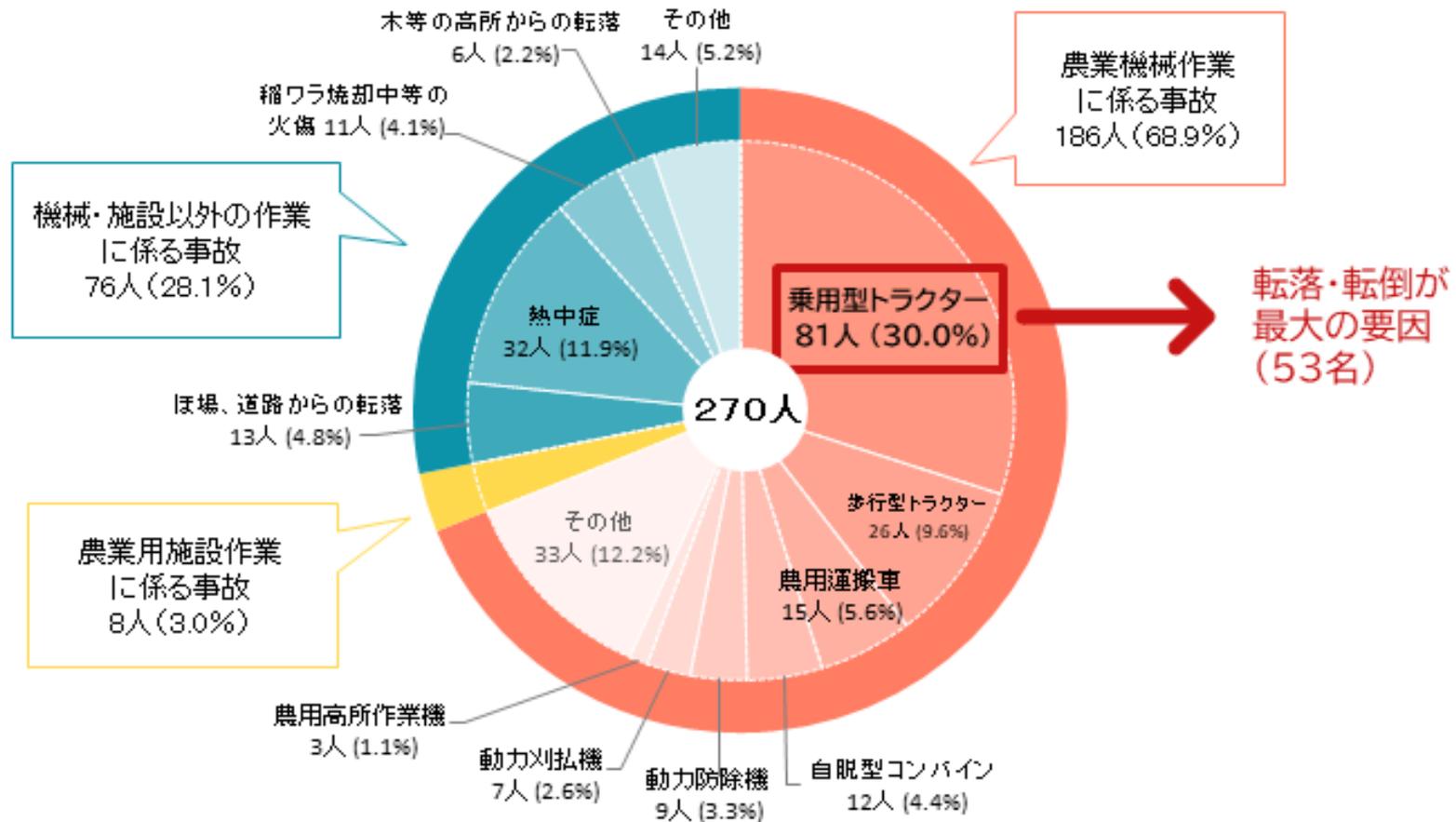
就業人口 農業：農林業センサス、農業機械動態調査（農水省）

他産業：労働力調査（総務省）

農作業事故は、あなたの身近に迫っている！

○ 乗用型トラクターの転落・転倒で多くの方が亡くなっています

要因別の死亡事故発生状況（令和2年）



資料：農作業死亡事故調査（農水省）

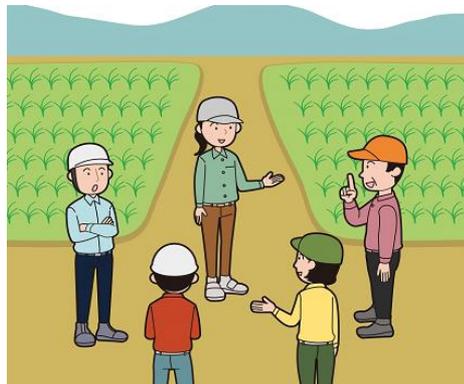
令和3年度、全国で約3700人の「農作業安全に関する指導者」を養成

前記のような状況を受け、農林水産省主導により
昨年度、全国で約3700人の指導者を養成する
事業を当協会が実施、全都道府県が参画

〔育成された指導者の所属内訳〕

都道府県、市町村	1,345
農業者団体(JA)	1,177
農業機械メーカー、販売店	572
農業機械士	136
労働安全衛生コンサルタント	121
指導農業士・農業経営士等	78
その他(GAP指導員等)	256

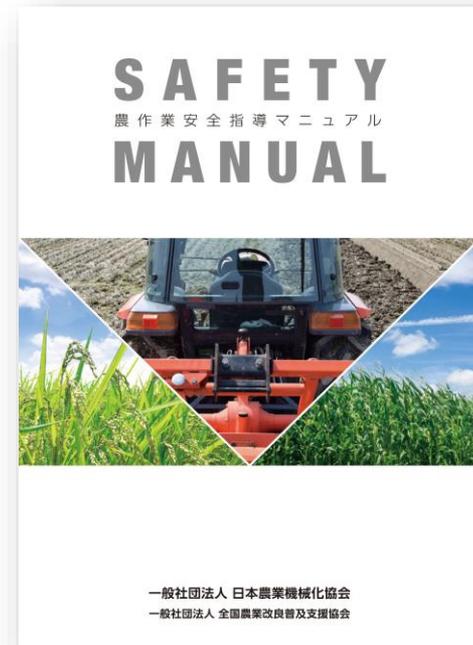
最も効果的な安全活動は、農業機械を用いる農
業者に直接、人が安全について語りかけることで
あるとの発想 その「語りかける人」を養成



活動のイメージ



養成研修風景



研修用テキスト

農作業事故は、あなただけではなく、家族や地域にダメージ

○ 被災者の想いを知ってください

千葉県在住 当時50歳代の男性

ロータリに巻き込まれ、右足の感覚が全くなかった

【事故の原因】

- ・トラクターを小さな段差近くに停車したが、駐車ブレーキをかけずに降車した
- ・降車の際にPTOを切らなかった



実際の負傷の様子

【被災者本人のコメント】

「事故が起きるまで、全く危険の予測がつかなかった。普段通りの作業なので慣れており、危険はないものと思っていた。」

露地野菜中心、約2ha経営
JAの部会長を歴任し、ラジオ
出演経験もある地域の中心
的存在

▶ 事故をきっかけとして
本人が**離農**

▶ ・近所の親戚や妻が営農を引き継ぎ
・医療費（生命保険のみ加入）と
経営損失が大きな負担

※ 被災者本人が、自分と同じ目に遭う人を一人でも減らせればと願い、情報を提供してくれました

農作業事故は、あなただけではなく、家族や地域にダメージ

○ 農作業事故には様々な影響があります



農作業事故発生

○ 身心への影響

- ・ 治療や後遺症による肉体的なダメージ
- ・ 自分の過失に対する心理的・精神的なダメージ



労働力の減少・喪失

○ 経営への影響

- ・ 治療費の負担、休職中や後遺症による収入減少・債務増加、代替労働力の確保、新たな機械の調達等による金銭的なダメージ
- ・ 作業能力の低下、代替労働力が確保できない場合の作業停滞等による事業継続へのダメージ



最悪の場合、経営破綻
離農

○ 地域農業への影響

- ・ 離農した場合、農地を引き受けてくれる担い手が確保できなければ、耕作放棄地が発生するといった地域の未来へのダメージ

農作業事故は、自分のことではないとの気持ち

- 農作業死亡事故の発生、年間300件前後
- 農業者単位あたり死亡事故者数、建設業の2倍、全産業の10倍
- 傷害事故は推計この数百倍（JA共済連の支払率では傷害事故は死亡事故の約270倍）



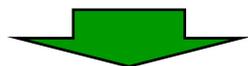
誰の身に起きても不思議ではない状況



ところが、多くは「自分は大丈夫」「事故は他人事」

事故に遭って初めてその恐ろしさを思い知る。

「効率優先」「焦り」「うっかり」も重大な事故原因



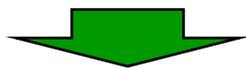
「安全がすべてに優先する」ことを農家の
皆さんが自分事として認識

意識改革と現場の改善

- ・ 農機作業の前に、家族と作業場所や作業内容について話し合い情報を共有
- ・ 農家同士で親身になって声を掛け合い安全優先の意識を
- ・ 普及組織やJAの研修会や農家訪問の際に、ひとこと言い添えて、農作業安全のチラシを配布



安全優先の意識醸成



安全意識の醸成とともに・・・

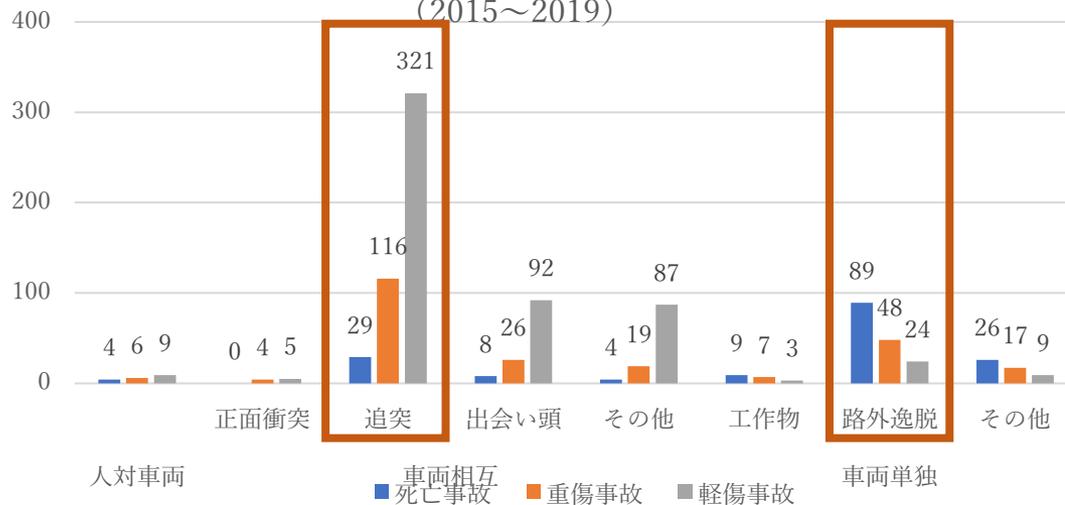
**農道等の危険個所の確認、ポールの設置、ヘルメットの着用、
農機の点検、シートベルトの着用、日々の安全打ち合わせ、
フレームの無いトラクターの買い替え等**

「安全な農作業のための現場改善」

死亡数1位のトラクター：シートベルトで死亡率1/8！

- 最近、警察データから道路上の農業機械事故を取り出し集計
- そのなかにシートベルト着用・非着用のデータあり
- それで分かったことは、シートベルト着用により死亡率は1/8に

農耕作業用特殊車の事故類型別交通事故件数
(2015～2019)



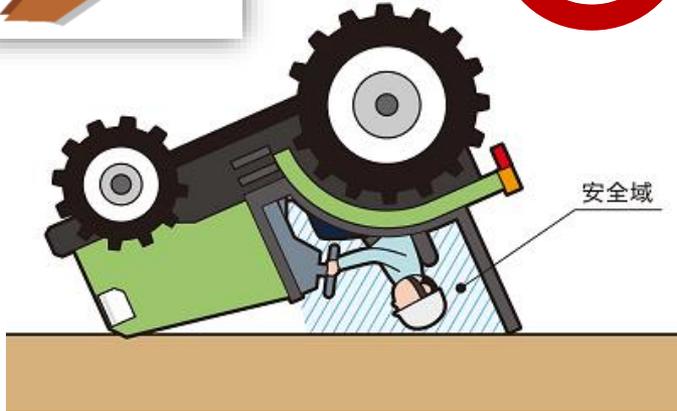
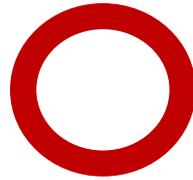
資料：(公財)交通事故総合分析センターのデータを日本農業機械化協会が集計したもの
警察組織が掌握している道路上の事故データのなかから「農耕作業用特殊車」が関与しているものを抽出して集計している

農耕作業用特殊車乗員のシートベルト着用の有無ごとの死傷の状況
(平成27～令和元年)

	死亡者	重傷者	軽傷者	合計
シートベルト着用	3 (3.2%)	10 (10.8%)	80 (86.0%)	93 (100%)
非着用	148 (24.5%)	175 (29.0%)	281 (46.5%)	604 (100%)
不明	5 (10.2%)	24 (49.0%)	20 (40.8%)	49
合計	156	209	381	746

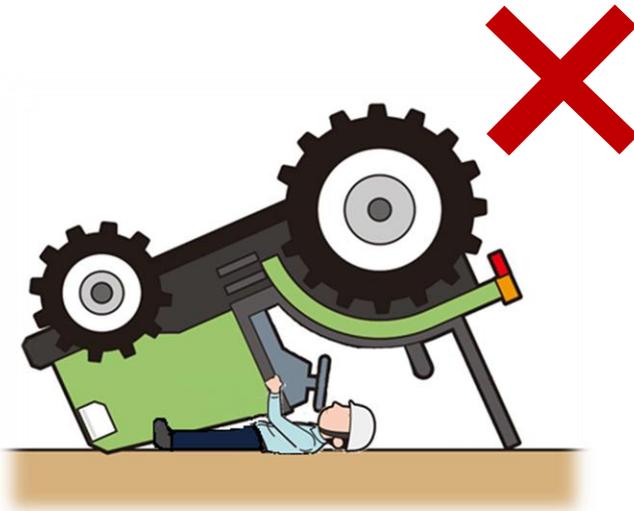
(公財) 交通事故総合分析センターの集計結果より作成

シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない

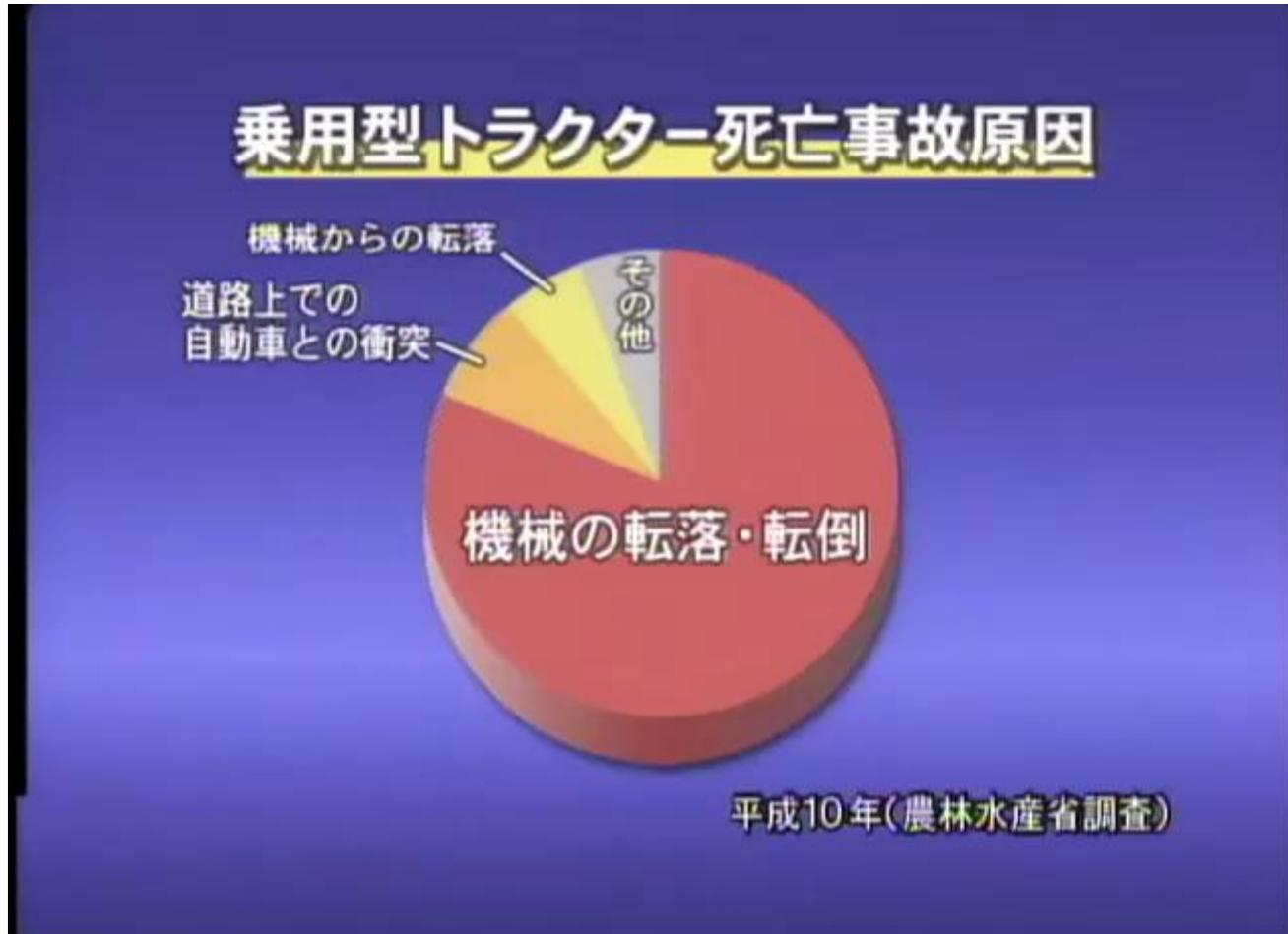


- シートベルトをしていれば、転倒しても助かる可能性がアップ
- ヘルメット装着でさらに安全

- 可倒式フレームを倒したまま運行・作業は絶対しないこと
- ちなみに、フレームのないトラクターは買い換えを



シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない



シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない



ただし、フレームのないトラクターは買い換えを

労働災害補償保険（労災保険）加入のお勧め

- 労災保険は本来、労働者(被雇用者)のための制度であり、農業でも雇用があれば原則加入の義務
- 農業は家族経営も多く、その場合は原則対象外だが、農業労働の実情からみて労働者に準じて扱うべきとも考えられ、「特別加入」の制度が存在
- 農業者の加入割合は8%程度にとどまっているが、一定以上の障害には一生涯年金支給など民間保険にはない有利な点があり、ぜひ加入をお勧め
- 特別加入は3種類の制度



後遺症が残ったら
障害補償給付

○特別加入の種類

(1) 特定農作業従事者

年間販売額300万円以上等の一定以上の規模で、
①動力駆動機械を使用、②高所作業、③農薬散布などの作業をする人

(2) 指定農業機械従事者

①農業用トラクター、②自走式田植機、③コンバインその他の収穫機などの機械を使用する人

(3) 中小事業主等

常時300人以下の労働者を使用する事業主およびその家族など

○補償の内容

(1) 休業4日以上ケガ

自ら設定した日当額に応じた日額の支払いに加え治療費は無料

(2) 障害が残った場合

障害の程度に応じて年金または一時金の支払い

ご清聴、ありがとうございました

農作業安全十訓

自分だけは大丈夫、そんなわけはあり得ない

何か起こればまずもって、エンジン停止と心得る

防具・保護具は全ての基本

服の裾、ひらひらタオルが大ごとに

トラクター、シートベルトは命綱

夜道では、ないと追突反射材

通りみち、傾斜路・雑草・曲がり角

組での作業は合図を決める

暑いとき、水分・塩分・木かげで休憩

ケイタイ携帯、居場所も言って

安全ルールはみんなで議論、黙って分かるは夫婦もない